

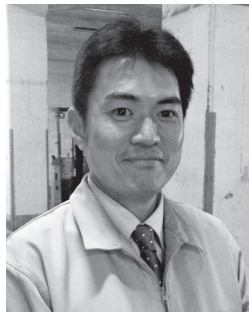
グローバルな人材活用を目指して

～事業、日中、人材を語る～

インタビュー vol.3

◆会員プロフィール◆

会 員 名：川西 正哲（さかい支部）
 会 社 名：(株)アンティ
 ホームページ：<http://www.kk.anty.co.jp>
 関連会社：千里経営サポート事業協同組合
<http://senri-keiei.com/>



人材派遣・アウトソーシング、流通加工業を手がけられる株式会社アンティ川西正哲さん。中国とのかかわりの経緯や今後の事業展開についておうかがいしました。

——中国とのかかわりの経緯を教えてください。

まず、弊社の概要からお話します。40年ほど前に父が運送会社を創業しました。これは兄が社長を引き継いでおります。運送業から派生して、お客様からのご要望で検品業務等への人材派遣、アウトソーシング、食品のセット商品をつくる流通加工へと展開したのが株式会社アンティです。

そのような中、人員面（人数・年齢など）でお客様のご要望に十分応えられない、弊社も採算がとれない状況になりました。そんな時、外国人技能実習生制度を知りました。これは開発途上国等の人材の育成を行うために、先進国の進んだ技能・技術・知識を修得させる制度です。つまり、日本で学び働きたい中国人の活用を考えたわけです。この制度の受入れ機関として協同組合を設立しました。当初は実績もなたいへん苦労しましたが、父や地元の人脈に無理を承知で受け入れをお願いし、実習先の企業を開拓してきました。設立から延べ600名以上、毎年100名以上の受け入れ実績となっています。

——協同組合の業務内容を詳しく教えてください。

受け入れ企業のご要望をおうかがいし、提携する中国の人材会社に募集してもらいます。応募者が揃ったところでお客様と中国に行き面談します。実習生を決定し日本語学校で勉強してもらい、その後日本に来て実習がスタートします。

——現在の事業の課題は？

お客様からのご要望がより高くなっていることと、中国人実習生が日本に来ることのメリットが薄くなっているこ



▲会社外観

とです。お客様の企業も厳しい経営環境の中、より自社に合う能力、人間性を求められると共に、人件費を今以上にかけられないということです。また、中国人実習生も地元の企業進出がめざましく、さまざまな費用を考えると稼ぎもあまり差がなくなってきています。弊社も昨年より東南アジアにも提携先をつくるなど、多様な人材の確保を模索しているところです。

——中国人と日本人の違いを感じられますか？

中国人はたいへんハングリーでよく働きますし、自身の考えも強く主張します。この仕事をできるようになって、日本人は「おとなしすぎるのではないか」と思うようになりました。ビジネスにおいては、キャッチボール、コミュニケーションが大切です。日本を客観的に見られるようになった気がしますので、事業にも活かしていきたいです。

——これからのビジョンは？

いい仕事、しっかりしたビジネスモデルがあっても、人がいないと成果は上がりません。これはアンティも協同組合も同じです。父は社員をととても大切にしてきました。わたしもいい人が集まり会社に貢献してくれる事業を進めていきたいと考えています。

インタビュー：日中経済交流研究会

坂元鋼材(株)

(株)ギャレークルー

大山印刷(株)

まとめ：村田社会保険労務士事務所

広報委員会

坂元 正三

合田 耕作

大山 武久

村田 晃一